

専門研修プログラム名	徳島大学病院連携施設 精神科専門医	専門研修プログラム
基幹施設名	徳島大学病院	
プログラム統括責任者	沼田周助	

専門研修プログラムの概要	精神科領域専門医制度は、精神医学及び精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼に応えることを理念とする。患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	本研修プログラムは徳島大学病院精神科神経科が基幹施設となり、提供する。徳島大学病院と近隣の7つの主要な精神科医療機関を連携施設としている。原則、一年間ごとに配属先を変え、幅広い精神疾患の診断と治療を学ぶ。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	1. 患者及び家族との面接、2. 疾患概念の病態の理解、3. 診断と治療計画、4. 補助検査法、5. 薬物・身体療法、6. 精神療法、7. 心理社会的療法など、8. 精神科救急、9. リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11. 災害精神医学、12. 医の倫理、13. 安全管理
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	毎週行われるカンファレンス、症例検討会、クルズス、勉強会に参加し、知識を積み重ねる。院内カンファレンスや学会で受け持った患者について発表・討論する。
	学問的姿勢	専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を定期的開催される院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、研修修了までに関連学会の地方会等での発表や学内誌などへの投稿をする。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾン・コンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	初年度は統合失調症、気分障害という主要な精神疾患の入院患者を受け持つことで、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学ぶ。さらに器質性精神障害の症例を通して他科の医師と治療計画を立てるなどのリエゾン・コンサルテーション精神医学を経験する。特に面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。2年目以降は、自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。神経症性障害及び種々の依存症患者の診断・治療を経験する。3年目の連携病院はより幅広い選択肢の中から専攻医の志向を考慮して選択する。認知行動療法や力動的な精神療法を上級者の指導のもとに実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療などを学ぶ。児童・思春期精神障害及びパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。
	研修施設群と研修プログラム	当プログラムは徳島大学病院と7つの連携施設から構成されている。総合病院である徳島大学病院、徳島県立中央病院、高松市民病院では幅広い症例を経験できる。四国こどもとおとなの医療センターは児童思春期精神疾患を経験できる。香川県立丸亀病院、藍里病院、むつみホスピタル、TAOKAこころの医療センターでは精神科救急、措置入院、薬物・アルコール依存の症例を経験できる。
	地域医療について	当プログラムにおいては大半を地域の中核病院で研修することとなるが、基本的な知識や技術が涵養できた3年目には地域医療を支える病院での研修が可能である。当プログラムの修了は精神科医療の入り口であり、さらに専門性を高めてもらいたい。その後の研修は専攻医の意向を尊重しながら継続的に指導する。
専門研修の評価	「研修実績管理システム」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が自分の記録を基に達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなう。研修を終了しようとする年度末には総括的評価により評価がおこなわれる。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない、評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価を付けた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。	
修了判定	研修実績を専門研修プログラム管理委員会において評価し、プログラム統括責任者により受験資格が認められたことをもって修了したものとする。	
	専門研修プログラム管理委員会の業務	専門研修プログラム全体の管理と運営、またプログラムの継続的改良を目的とする。就業環境の整備（労務管理）、専攻医の心身の健康管理、プログラムの改善・改良、研修の状況の管理、修了判定を行う。

専門研修管理委員会	専攻医の就業環境	各施設の労務管理基準に準拠する。
	専門研修プログラムの改善	基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。
	専攻医の採用と修了	統括責任者・プログラム担当者が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。プログラムの修了は研修実績を専門研修プログラム管理委員会において評価し、プログラム統括責任者により受験資格が認められたことをもって修了したものとす。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	専門研修が困難な場合は、プログラム統括責任者を通じて、専門医研修委員会に申請することにより、専門研修を中断できる。プログラムの移動については、専門医研修委員会での承認を必要とする。移動先のプログラムの定員やその都道府県のシーリングの要件によってプログラム移動が認められないことがある。
	研修に対するサイトビジット (訪問調査)	連携施設がプログラムの基準を満たしているかどうかを把握するために各施設に訪問を行う事がある。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	沼田 周助/徳島大学病院精神科神経科/教授；中瀧 理仁/徳島大学病院精神科神経科/准教授；梅原 英裕/徳島大学病院精神科神経科/講師；大森 隆史/徳島県立中央病院/精神科部長；伊藤 嘉信/香川県立丸亀病院/部長；中土井 芳弘/四国こどもとおとなの医療センター /児童精神科医長；安平 洋/高松市民病院/医長；元木 洋介/藍里病院/院長；橋本 台/TAOKAこころの医療センター/院長；小谷 泰教/むつみホスピタル/院長	
Subspecialty領域との連続性	当院は日本総合病院精神医学会専門医（一般病院連携精神医学専門医）、てんかん専門医の研修施設です。また日本児童青年精神医学会認定医を目指す方は四国こどもとおとなの医療センターを研修先に選択できます。	